

再意見提出フォーマット

再意見提出者	トヨタ自動車株式会社
--------	------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

複数のサービスやシステムについてご回答される場合は、それぞれ別々のフォーマットに記入してください（できるだけイメージ図等を加えてください。）。

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
15 40 47 58	株式会社Big Picture International クアルコムジャパン株式会社 ソフトバンクモバイル株式会社、ソフトバンクテレコム株式会社、ソフトバンクBB 株式会社 日本エリクソン株式会社、ノキアシーメンスネットワークス株式会社、ノキアジャパン株式会社、ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ株式会社	<p>【寄せられた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 700MHz 帯全域を携帯電話用途とする ・ ITS を国際的に広く使われている5.8—5.9GHz 帯へ移行 <p>【上記に対する意見】</p> <p>ITS では、交差点や見通しの悪い場所における、危険状況の発見遅れが原因で発生する事故の防止を狙いとして安全運転支援システムの実用化を目指している。その根幹となる無線通信システムは、大型車や建物等の陰に回り込むことが可能な、いわゆる見通し外通信に適した700MHz～1GHz の周波数帯域を使用することが必要である。例えば、交差点における出会い頭衝突を想定した場合、事故防止のためには、交差点から約80m～120m 手前での見通し外通信が必要となるが、ITS 無線システムの高度化に関する研究会の最終報告書によれば、700MHz 帯では約150m の範囲の通信が可能であるのに対し、5.8GHz 帯では約50m であり事故防止には不十分といえる。5.8GHz 帯のDSRC によるスマートウェイ等の情報サービスに加え、700MHz 帯を用いた見通し外車両の情報を活用することで、交通事故の大幅な削減が可能になると考えている。</p> <p>このような取り組みは欧米に先駆けたものであり、国際標準化活動としてもITU-R に700MHz 帯ITS 無線システムを提案する等、日本発の技術の国際展開が盛んに行われている。交通事故防止の観点から700MHz 帯の有効性は世界的にも広く認識されており、米国DOT、欧州委員会もこの点では同様の見解を持っている。</p> <p>また、欧米のITS 無線システム（5.9GHz 帯）で検討中の変調方式や通信制御方式との共通化を図る等、国際協調が進められており、アジア各国と連携した検討も進んでいる。</p>
15 49	株式会社Big Picture International UQコミュニケーションズ株式会社	<p>【寄せられた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ITS 開発は非常に初期の実験段階にあり、900MHz 帯のような別周波数に動かしやすい ・ 700MHz 帯をBWA (TDD) 方式でも利用できるように割当て、ITS もBWA (TDD) 方式を用い730—770MHz 帯を共用 <p>【上記に対する意見】</p> <p>安全運転支援システムは、2006 年からITS 推進協議会を中心に官民協同での検討が進められ、2008 年度には官民が連携した大規模実証実験やデモンストレーションが実施され、諸外国を含む多数の参加者が体験し、高い評価を得るとともにその有効性が示された。700MHz 帯ITS 無線システムを用いた安全運転支援システムを早期に実用化し、交通事故の低減を一刻も早く実現したいと考えている。</p> <p>700MHz 帯ITS 無線システムの技術的条件については、情報通信審議会ITS 無線システム委員会で審議され、ほぼ結論が纏まりつつある。また、ITS 情報通信システム推進会議を中心に通信方式等の規</p>

		<p>格標準化作業が行われており、民間でもこの帯域を用いた技術開発やシステム検証が進められ、2012 年以降の実用化に向け最終段階に入っている。平成22年6 月22 日、IT 戦略本部で策定された「新たな情報通信技術戦略 工程表」にも、事故対策として安全運転支援システムの開発／整備計画、および具体的な取り組み事項が記載されており、目前に迫るサービスの実用化に対し、必要な規格、制度、社会基盤等の整備が着実に進むことが重要である。</p> <p>現時点において、ITS 無線システムに関し、周波数を900MHz 帯等へ再割当、または別方式を採用する等の措置を施すことになれば、技術的条件検討や諸制度の整備、通信方式等の規格標準化作業のやり直しが発生し、安全運転支援システムの実用化、及び普及時期が大幅に遅れることが想定され、欧米に先を越されると共に、交通事故削減効果への寄与にも影響が出ることが懸念される。</p>
40	クアルコムジャパン株式会社	<p>【寄せられた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ITS は隣接予定のIMT や放送との共存条件が未だ十分解決されていない <p>【上記に対する意見】</p> <p>700MHz 帯におけるITS 無線システムと隣接他システム（地上デジタル放送及び電気通信事業）との共存条件については、情報通信審議会ITS 無線システム委員会において以下のような検討状況と認識している。</p> <p>地上デジタル放送に関しては、ITS 無線システムにマスク強化等の対策を実施することにより共存可能との結論に至っている。</p> <p>電気通信事業に関しては、ITS からの与干渉については、ITS 無線システムにマスク強化等の対策を実施することにより共存可能との結論に至っている。また、ITS への被干渉についても、共存するための技術的条件について結論を得ているが、700MHz 帯を基地局送信へ割り当てることで、さらに共存に有利になると考えている。</p> <p>現在、情報通信審議会携帯電話等周波数有効利用方策委員会において継続審議中であり、早期に共存条件が取りまとめられると想定している。</p>